

平成29年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【宮城県】

1 実践テーマ	【 I 】
2 実施対象者	<p>仙台市立田子中学校</p> <p>第 1 学年 (男子 69 名 ・ 女子 64 名) (特別支援学級生徒含む)</p> <p>第 2 学年 (男子 58 名 ・ 女子 58 名) (特別支援学級生徒含む)</p> <p>第 3 学年 (男子 72 名 ・ 女子 59 名) (特別支援学級生徒含む)</p>
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 (保健体育・道徳)</p> <p>② 行事名 (運動会)</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	<p>東京 2020 大会をより身近なものとして捉えられる生徒の育成</p> <p>(教育活動の中で主体的に学び、関心意欲を高める取組を通して、東京 2020 大会への興味関心を高め、3年後の東京 2020 大会への期待を膨らませ多様な形(行く、支える、見る、調べる)で携わることができる効果を目指す。)</p>
5 取組内容	<p>オリ・パラアンケート調査</p> <p>355名の生徒のオリンピック・パラリンピックの知識、興味関心を知るために5月に実施した。「次の夏季オリンピックが楽しみか?」という問いに対して19%の生徒が「思わない」と答えた。その他にも「次の夏季オリンピック・パラリンピック大会が西暦何年どこで開催されるか?」という問いでは27%の生徒が答えられなかった。</p> <p>視聴覚教材を使った授業実践</p> <p>オリンピックの意義や歴史、東京2020大会のコンセプト等の学習を行った。スポーツ庁の指導参考映像資料を使ってオリ・パラの知識を高めた。</p> <p>また、各単元の学習カードにオリ・パラに関連した内容を掲載した。</p> <p>生徒昇降口にオリ・パラブースを設置</p> <p>美術部が大きな五輪を作成し、昇降口にブースを設置した。オリ・パラに関する写真や本を紹介するコーナー、仙台大学出身でリオオリンピックボート競技に</p>



出場した大元英照さんのユニフォームを展示した。

仙台大学 講師 荒牧亜衣さんによる講演会

「第30回オリンピック競技大会招致関連資料からみるオリンピック・レガシー」という論文で浅田学術奨励賞を受賞（日本体育学会）するなど活躍し、現在は、仙台大学講師として、研究に取り組んでいる。



演題は「2020年東京大会がもたらすもの」
〈わたしからみるオリンピックとパラリンピック〉

【生徒の振り返り】

1964年に日本で開かれたオリンピックと2020年にある東京オリンピックの2つの大会からオリンピックやパラリンピックの歴史が関わっていることが分かった。当時と今とは異なり、有形のものを意識して作られているので日本も技術などが上がっているのではないかという期待がわいた。オリンピックを作ったクーベルタンは勝つことよりも参加することの前向きな言葉が印象に残りました。東京オリンピック・パラリンピックが楽しみになる貴重な話が聞けて良かったです。

校長による道徳集会

夏休み前集会で「兵藤（前畑）秀子 自分のオリンピック」について校長による道徳集会を行った。「人にとって、オリンピックはどんな力があると思うか」「ベルリンオリンピックにかけるか苦悩する秀子はどんな思いだったか」を問い、オリンピックが与える力について考える時間となった。



体育委員会によるオリ・パラ通信の発行

オリンピックの知識だけでなくクイズなども掲載し、生徒の興味関心を高めた。その中で田子中オリ・パラマークを募集し、数多くのイラストをブースに掲示した。優秀賞を決め、全校集会で表彰をした。



日本を象徴した富士山と桜をモチーフとした作品が優秀賞に選ばれた。

オリ・パラスクラップの作成

1年生の夏休み宿題としてスクラップ写真を作成させた。色鮮やかに作成する生徒や自分の好きな競技のみを集めて貼ってくる生徒など様々だった。完成した作品は学級ごと束ねてオリ・パラブースに展示した。



仙台大学 副学長 鈴木省三先生による講演会

サラエボ大会には選手として出場し、カルガリー大会ではジャマイカ選手団を指導した。1994年のリレハンメル大会で監督を務め、1995年には宮城県スポーツ大賞を受賞した。平成24年には日本ボブスレー・リュージュ・スケルトン連盟の理事を務め、ソチ大会では、ボブスレー・リュージュ・スケルトンチームリーダーとして日本の冬季種目を牽引している。

演題は、

『オリンピック・スポーツの価値を考える』～オリンピックで学んだこと～



【生徒の振り返り】

オリンピックでも、スポーツでも一人ではできなくて、人と人をつなぐというのを改めて知りました。私はスポーツが苦手だけど、日々運動をしっかりとし、スポーツという楽しさをもっと実感したいと思いました。スキー板が壊れた時、違う国のコーチが助けにいていて助け合いは大切なんだなと思いました。今日の講演会を聴いてオリンピックに興味が湧き 2020年の東京オリンピックが楽しみになりました。スポーツで最後まであきらめないというのは大切なんだなと改めて感じることができました。折れない心、へこたれない心を大切に、日々運動をしていこうと思いました。

運動会の開会式で美術部とコラボしたオープニングセレモニー



HEROの曲が流れる中、各学年代表生徒4名が聖火をつなぐ演出をした。

美術部の生徒が、リオデジャネイロオリンピックの引き継ぎセレモニーで安倍首相が演出したスーパーマリオで登場し、会場を沸かせた。



地球の裏側ブラジルから田子中学校へ引き継がれた。

【美術部生徒の振り返り】

僕は運動が苦手な方だけど今年の運動会では、トーチやマリオを作成し、実際にマリオ役として登場することもできた。リオデジャネイロオリンピックに似せた開会式をすることができ、僕自身光栄でした。

順天堂大学講師 新竹優子さんによる講演会

2008年の北京オリンピック、2012年のロンドンオリンピック体操競技女子日本代表、現在は順天堂大学講師として体操の指導をしている新竹優子さんによる講演会を行った。

演題は「体操競技、オリンピックを経験して伝えられること」



【生徒の振り返り】

新竹優子さんの話を聞いて、トップの人は自分と何が違うのだろうかと思っていたが、気持ちの持ち方が違うことがわかった。できないことから逃げず克服することが大切だと思った。大変で苦痛なことを乗り越えて2回もオリンピックに出ていて、自分のプレッシャーや緊張、ワクワクを乗り越えて成長できていて、常に前向きに考えて、細かいことまで真剣に取り組むことができている新竹さんみたいに自分を誇れることができる人に自分もなりたいと思いました。

私は体操競技に興味があるので、オリンピックに出場された新竹優子さんにお会いできたことを誇りに思います。体操は、男女によって種目数が異なることがわかりました。技を正確にやるのは勿論、難しい技をやると加点され、それをミスしてしまうとそれ以上に減点されてしまうので、難しい技を正確にやるのが重要だとわかりました。新竹さんは練習日誌を書いている、小さい頃の記録も書かれていたので、それを続けるのはすごいと思いました。今回、一番学んだのは辛い時でも練習、目標を持ちそれに向けて行動することなので、私もしようと思います。

6 主な成果

〈アンケート集計結果より〉

Q1 次の夏季オリンピックは西暦何年、どこで開催されるか？

【5月】		【1月】	
正解	259人	正解	318人
不正解	96人	不正解	37人

Q2 オリンピックマークの5つの輪の意味を知っていますか？

【5月】		【1月】	
知っている	88人	知っている	225人
知らない	267人	知らない	130人

Q3 第一回のオリンピックが開催された都市はどこですか？

【5月】		【1月】	
正解	45人	正解	222人
不正解	310人	不正解	133人

Q4 次のオリンピックが楽しみだ。

【5月】

A 良く思う	B 少し思う	C あまり思わない	D 思わない
167人	119人	38人	31人



【1月】

A 良く思う	B 少し思う	C あまり思わない	D 思わない
196人	118人	19人	22人

アンケートを実施した355名の正答率が（問1）90%（問2）63%（問3）63%という結果だった。（問2）（問3）に関しては、70%に満たない数値ではあったが今年度のオリ・パラ・ムーブメント事業の取り組みの結果、（問2）では38%（問3）では50%の上昇がみられたのは大きな成果となったと考える。今年度のテーマにもあった主体的に学び、関心意欲を高める内容については（問4）では89%の生徒が次のオリンピックが楽しみだと答えた。これも5月と比べ8%の上昇が見られる成果となった。

【生徒の感想】

- ・オリンピックただ見ていたときと、実際に話を聞いてから試合を見るときで、見方が全然違う。話を聞いて、オリンピックに出てる全ての選手は今までにどのぐらいの努力をしてきたのだろうと思うようになった。自分も同じくらい努力できる人になりたいと感じることができた。
- ・はじめは、オリンピックについて詳しく知らなかったけれどオリ・パラ講演会などで多くの話を聞いてうちにオリンピックで行われる競技を1つでもいいから見てみたいと思うようになりました。また、2020年に東京で開催されるオリンピック・パラリンピックがより楽しみになりました。私は、ただ応援することしかできないけれど、見て勉強してもっとたくさんを知りたいです。
- ・3回の講演の中で、オリンピック・パラリンピックの雰囲気や外国選手との関わり、選手村についてなどなかなか学べない事を学べてとても興味深かったです。またオリ・パラブースでは、オリンピック・パラリンピックに関する展示物が色々あり、よりオリ・パラを身近に感じられました。田子中でオリ・パラについて学んだことにより、よりオリンピックを観に行ってみたく感じました。私は特にバドミントンの試合を観戦してみたいです。
- ・今回、田子中学校がオリ・パラ推進校に選ばれたことによって、今まで分からなかった沢山のことが学べました。選ばれていなかったら、きっと分からないまま分かったらともしていなかったと思います。今回の推進事業に参加できてよかったです。

7実践において工夫した点（事業の特色）

本年度は「オリンピック・パラリンピックをより身近なものとする生徒の育成」を意識した。主体的に学び、関心意欲を高めるために体育委員会や美術部に活動を依頼、運動会では聖火リレーやマリオの登場するオープニングセレモニーで会場は盛り上がった。その他にも田子中オリ・パラマーク募集やスクラップ写真など、多くの生徒が関わられるようにし、生徒が主体的に関わることができる活動を多く設けた。昇降口には、オリ・パラブースを設置、知識に関することだけでなく、選手のユニフォームや生徒の作品を展示したことによって興味関心を高めた。講演者の順番も研究者→指導者→オリンピックとし、生徒が身近に考えられる内容となるよう考慮した。校長からは、オリンピックに関連する内容で道徳集会を行う等、教育活動の多方面からオリ・パラ推進事業を行うように努めた。

8主な課題等

アンケートを実施した355名の10%がQ1を答えられることができなかった。Q4の東京2020大会が楽しみではないと思っている人も11%と、全く興味関心がないことは非常に残念な結果となった。この10%の生徒に興味関心が高められるよう継続的な学習が必要と考える。そのためには、体験的な授業実践や現役オリンピックを招致する等の活動が必要だったと考える。

9来年度以降の実施予定

- ・オリ・パラ授業、ブース設置は継続する。
- ・現役オリンピックの招致予定。
- ・車いすバスケやボッチャ等、体験的な活動を取り入れる。

